四万十町

町内ぶら～り散策

桧生原（ひさはら）

先月号の寺野から、さらに井細川をさかのぼると桧生原である。ここも寺野と同じく、井細川を挟んで南北に細長い地区で、古くは、井細川六ヶ村の一つであった。江戸中期に編さんされた地誌「土佐州郡志」や、元禄期の記録によれば「桧曾原（ひそはら）村」とある。それより約100年後に編まれた地誌には「村民ヒサハラ村といふは、ソ・サ同韻なるゆへ也」とあり、桧曾原と書くが、民衆は「ひさはら」といっていたという説が有力のようである。

何れにしても「桧」の文字は、この井細川上流一帯が、太古の昔から上質のヒノキが育つ山々であったことを物語っている。ここ桧生原よりもさらに上流の折合から南川口まで、切り出した材木を運搬するトロッコが走っていたことは南川口の回でも記した通りである。このトロッコの軌道設置作業には、桧生原地区の住民が大勢参加した。また、桧生原地区から他の地区への「嫁入り」に、このトロッコを利用することも数多くあったという。

桧生原地区の住民は山と生きてきた住民とも言える。もちろん、谷間の狭い土地を懸命に切り開き、農地を作り守ってきたのであるが、近代になっても山との関わりはやはり深く、その典型として、桧生原には今も狩猟をする人が多い。一方、農業について言えば、山間の農地で生計を立てていくために、これまで実に多くの挑戦をしてきた。その一つが「サツキ」の栽培である。昭和30年代から50年代にかけて行われたサツキ栽培は、県内外にも広く知られ「ここに来れば、珍しい品種がある」と、多くの人から注目されたという。

産土神は、天津彦根命を祀る桧生原神社。また、地区には禅宗・桧曾山正持院と号する正善寺という寺があった。正善寺は、戦国期には「昌前庵（しょうぜんあん）」といい、廃仏毀釈より前の幕末には退転したようである。

この地区は山間であるため、昔から交通の不便な地区であったが、現在は井細川を挟んで東に町道、西に県道が並行して走り、地区民の生活に仕事にと活躍している。

ここ桧生原地区には43世帯、80人が暮らしている。

学校跡は現在、地区の集会所となっている

町のうごき

（6月30日）	人口	前月比
男	8,070	2
女	8,926	−10
計	16,996	−8
世帯数	8,475	−8

	出生	死亡	転入	転出
男	4	10	13	5
女	3	14	8	7
計	7	24	21	12

（6月中の届出）

窪川地域 12,029人　大正地域 2,382人　十和地域 2,585人

お詫びと訂正

7月号の人口前月比に誤りがありました。

（5月31日）	人口	【正】前月比	【誤】前月比
男	8,068	−20	−2
女	8,936	−17	1
計	17,004	−37	1
世帯数	8,483	−12	17

ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

四万十川の水質状況

	適正値(mg/l)	7月16日
リン酸	≦ 1.0	0.164
硝　酸	≦ 0.5	0.603
アンモニウム	≦ 5.0	0.126
アニオン活性剤	≦ 1.0	0.25
化学的酸素要求量	≦10.0	測定範囲以下

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

四万十町通信　2019.8月号　Vol.161（毎月10日発行）
●発行／四万十町企画課　●印刷／窪川印刷
〒786-8501　高知県高岡郡四万十町琴平町16-17　☎（0880）22-3124　FAX（0880）22-3123

UD FONT by MORISAWA　本文など内容の一部に見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。